

事業説明会

自動車部品事業

2025年6月6日

自動車部品事業部門

事業部門長 内田 輝義

本資料は、株主、投資家、ならびに報道関係者の皆様に当社の活動内容に関する情報を提供することを目的として作成しています。

将来情報についての注意事項

この資料に記載されております売上高及び利益等の計画のうち、過去または現在の事実に関するもの以外は、当社グループの各事業に関する業界の動向についての見通しを含む経済状況、ならびに為替レートの変動その他の業績に影響を与える要因について、現時点で入手可能な情報をもとにした当社グループの仮定及び判断に基づく見通しを前提としております。

これら将来予想に関する記述は、既知または未知のリスク及び不確実性が内在しており、例として以下のものが挙げられます、これらに限られるものではありません。

- ・米国、欧州、日本その他のアジア諸国の経済情勢、特に個人消費及び企業による設備投資の動向
- ・米ドル、ユーロ、アジア諸国の各通貨の為替相場の変動
- ・急速な技術革新と当社グループの対応能力
- ・財務的、経営的、環境的な諸前提の変動
- ・諸外国による現在及び将来の貿易規制等
- ・当社グループが所有する有価証券等の時価の変動

従いまして、実際の売上高及び利益等と、この資料に記載されております計画とは大きく異なる場合があることをご承知おき下さい。なお、当社グループは、この資料の本リリース後ににおいても、将来予想に関する記述を更新して公表する義務を負うものではありません。

著作権等について

この資料のいかなる部分についてもその著作権その他一切の権利は、古河電気工業株式会社に帰属しており、あらゆる方法を問わず、無断で複製または転用することを禁止します。

Agenda

1. 2030年に向けた事業戦略
2. 車両進化を牽引する製品提供
3. カーボンニュートラル／サーキュラーエコノミーの推進
4. 顧客戦略と生産体制の進化
5. 売上高・営業利益推移

Appendix 事業概要、製品紹介

1. 2030年に向けた事業戦略

- (1) 2030年ありたい姿
- (2) 事業戦略ロードマップ

(1) 2030年ありたい姿

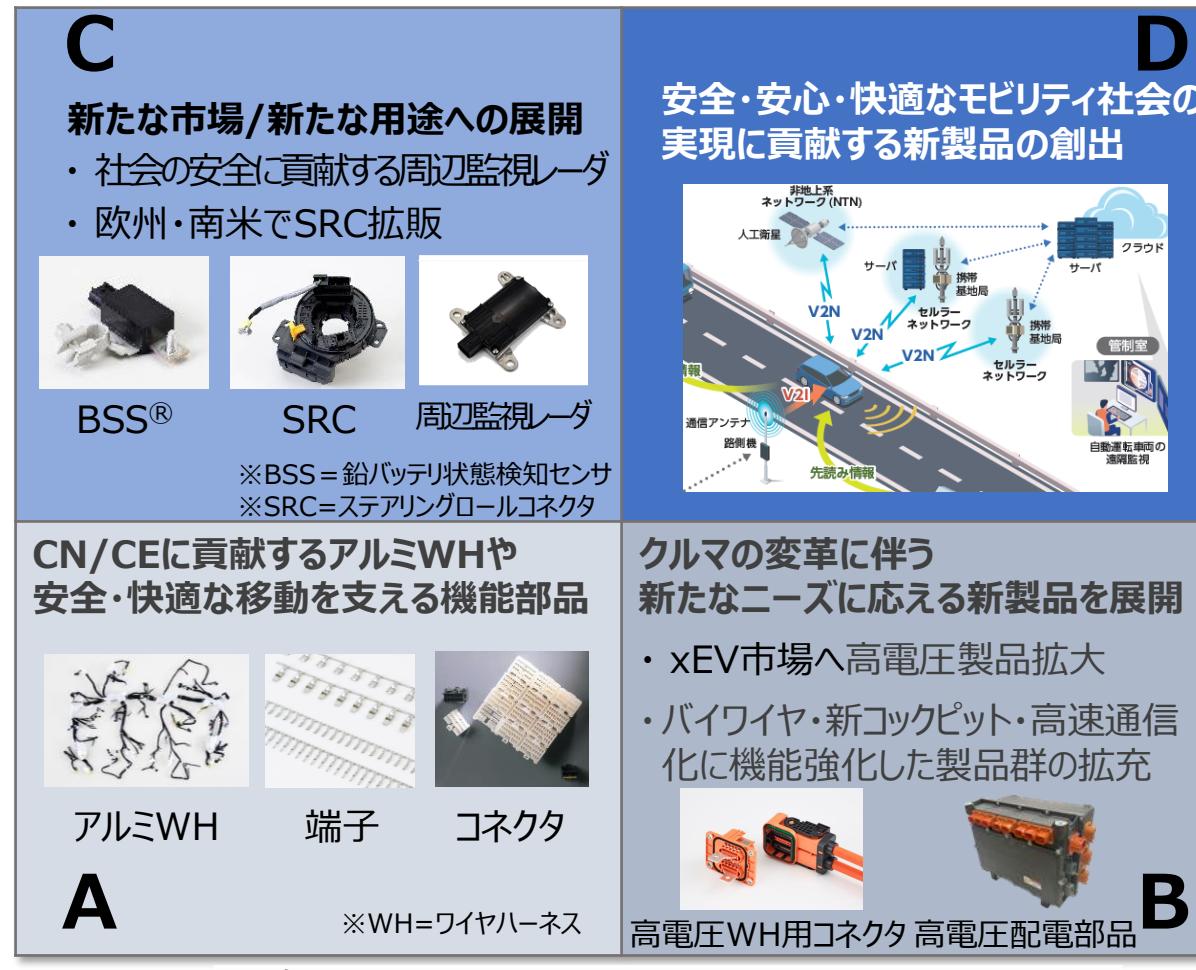


安全・安心・快適なモビリティ社会の実現、およびカーボンニュートラル/サーキュラーエコノミーの推進を支える価値提供を通じて、社会課題解決への貢献と持続的成長を両立する

環境変化	分類	2030年ありたい姿
<p>▶収益機会</p> <ul style="list-style-type: none">・電動化の緩やかな成長・クルマの変革の急進・モビリティ市場の広がり・安全・安心な次世代まちづくり <p>▶リスク</p> <ul style="list-style-type: none">・急激な需要変動・地政学リスクの拡がり・調達網・物流網混乱・サプライチェーン分断	車両進化を牽引する 製品提供	<ul style="list-style-type: none">・ 環境配慮、電動化などクルマの変革に伴う新たなニーズへの対応・ 事故の未然防止に貢献し、安全・安心・快適な移動を支える製品創出・ 様々なモビリティサービスと連携した社会基盤構築への貢献・ 情報・エネルギー・モビリティの融合領域の新製品創出
	カーボンニュートラル/ サーキュラーエコノミー の推進	<ul style="list-style-type: none">・ ライフサイクルで環境にやさしい製品の拡大・ 太陽光発電、地熱発電等の再生可能エネルギーの利用促進・ データを活用した省エネ生産への深化
	顧客戦略と生産体制	<ul style="list-style-type: none">・ 顧客の製品・地域戦略に応じたニーズへの対応と成長領域への拡大・ 地政学リスクを最小化する強靭なサプライチェーンの再構築・ 設計段階から自動化・省人化しやすい製品開発と生産の自動化

(2) 事業戦略ロードマップ

- ① 競争力や変化対応力を高め、CN/CEの推進やクルマの変革に伴うニーズに応える
- ② 当社の製品、技術を通じた、安全・安心・快適なモビリティ社会への新たな価値提供



2. 車両進化を牽引する製品提供

- (1) 製品戦略ロードマップ
- (2) テーマ別戦略
 - ①アルミ拡大
 - ②高電圧・大電流化
 - ③高信頼に応えるセンシング技術
 - ④融合製品（V2X・次世代伝送）

(1) 製品戦略ロードマップ



高速通信・高出力化など顧客課題を解決する価値づくりに注力し、製品価値を向上

リサイクル技術の向上、再エネ活用、生産方式の深化によりCN/CEを目指す



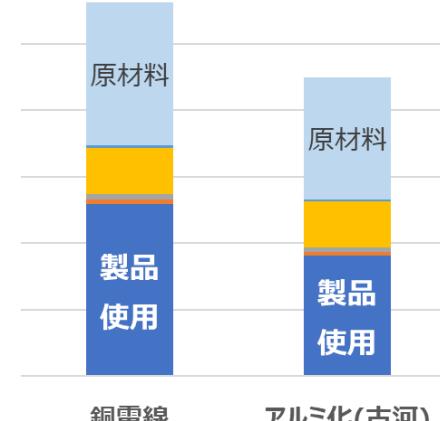
■BCM:事業継続マネジメント ■ASIL(Automotive Safety Integrity Level):自動車安全水準 ■NCAP(New Car Assessment Program):新型車の安全性評価

■CAN : Controller Area Network ■xEV/FCEV : 電動車/燃料電池車 ■ADAS : 先進運転支援システム ■SoC : System-on-a-chip ■V2X : 車と様々なものとの通信技術で接続

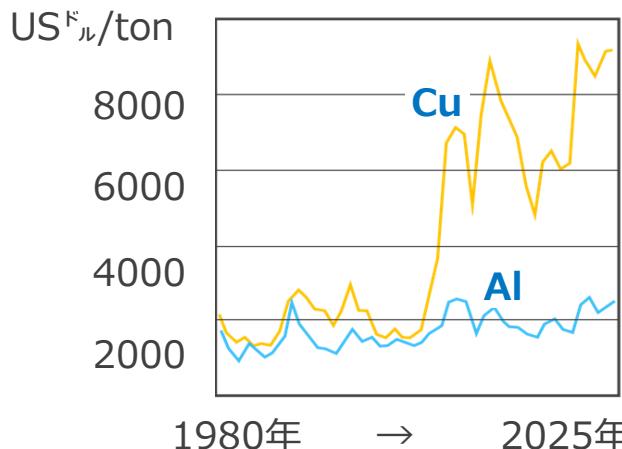
(2) テーマ別戦略 ①アルミ拡大

環境・コスト両面で当社アルミ電線は銅電線に対して持続的に優位
段階的な要素技術開発とラインナップ[®]拡充で2035年にアルミ電線採用率を最大化する

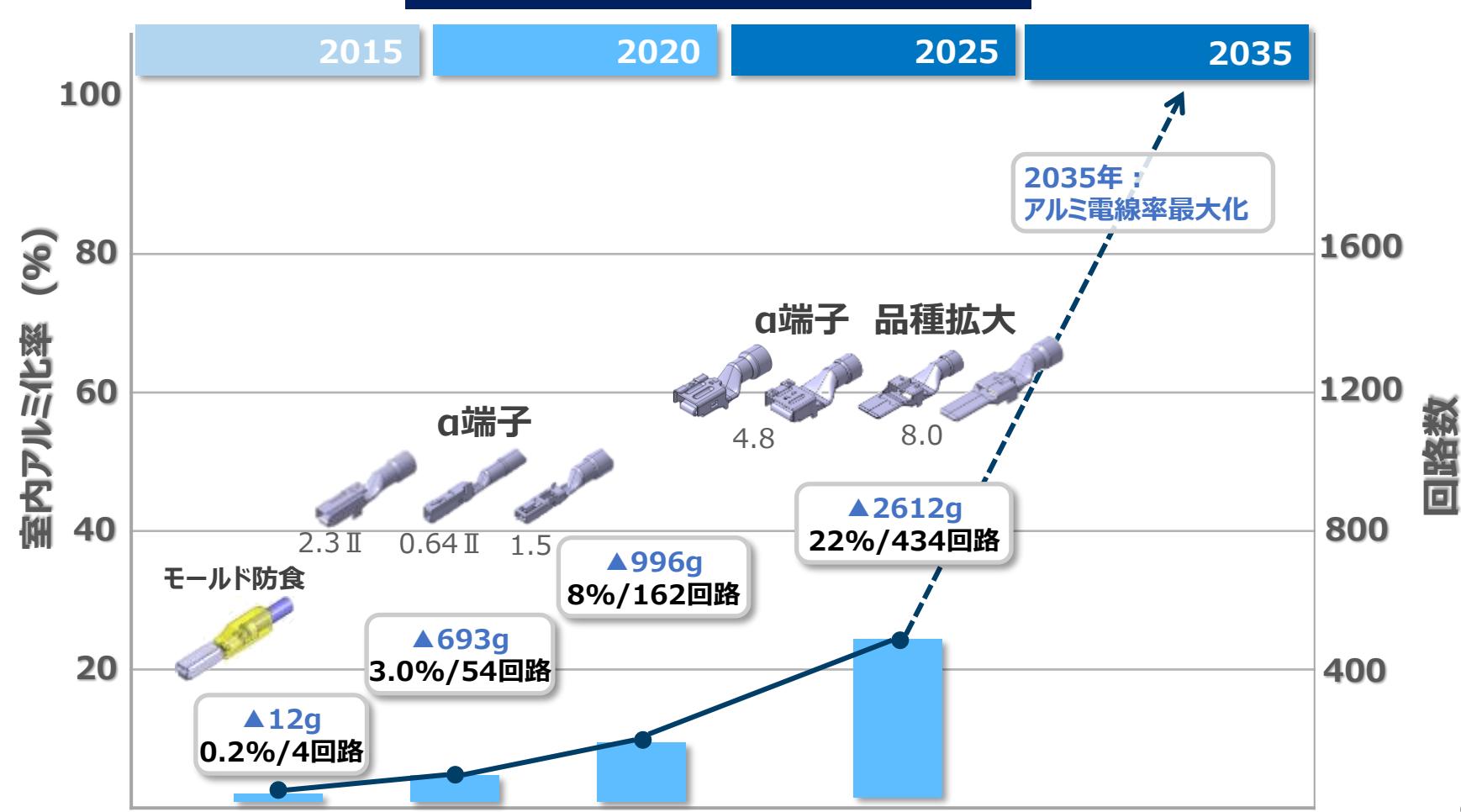
ワイヤーハーネスのCO2排出量



銅とアルミの建値推移



段階的な要素技術開発とラインナップの拡充



(2) テーマ別戦略 ②高電圧・大電流化



成長する電動車市場では、当社の素材力・加工技術の強みを活かした高電圧製品を展開

<電動車における変化点>

- ・エンジン ⇒ 電動モーターへの置換え/追加
- ・燃料タンク ⇒ 電池パック (xEV) /水素タンク (FCEV)への置換え/追加
- ・車両重量の増加 ⇒ 1.1倍～1.3倍 (※当社調査結果)



素材力



銅

バスバー技術



ファイバレーザ溶接



バスバー設計

<成長する電動車市場への対応>

車両システムの変化による、高電圧システム製品の増加



高電圧・大電流コネクタ



高電圧WH/電池パック内ハーネス



高電圧JB



高電圧バスバー

※WH=ワイヤハーネス
※JB=ジャンクションボックス

センシング技術で 安全・安心・快適 なモビリティ社会の実現に貢献

BSS[®] (鉛バッテリ状態検知センサ)

バッテリ状態監視による電源失陥の確実な防止

- BSS[®]によるバッテリあがり未然防止
xEV/FCEVの安全な高電圧システム起動
- 駐車中のバッテリ状態監視機能



周辺監視レーダ

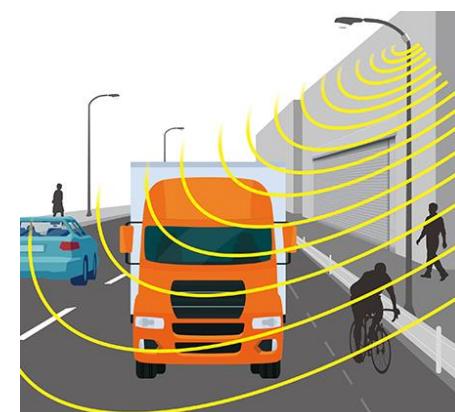
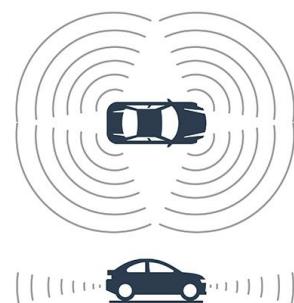
カメラではとらえにくい環境でも危険を検知

■ モビリティ向け

検知性能向上により、最新のNCAPにも適用可能に
建機・産業用車両の周辺監視

■ インフラ向け

高速道路での逆走車両の検知



安全

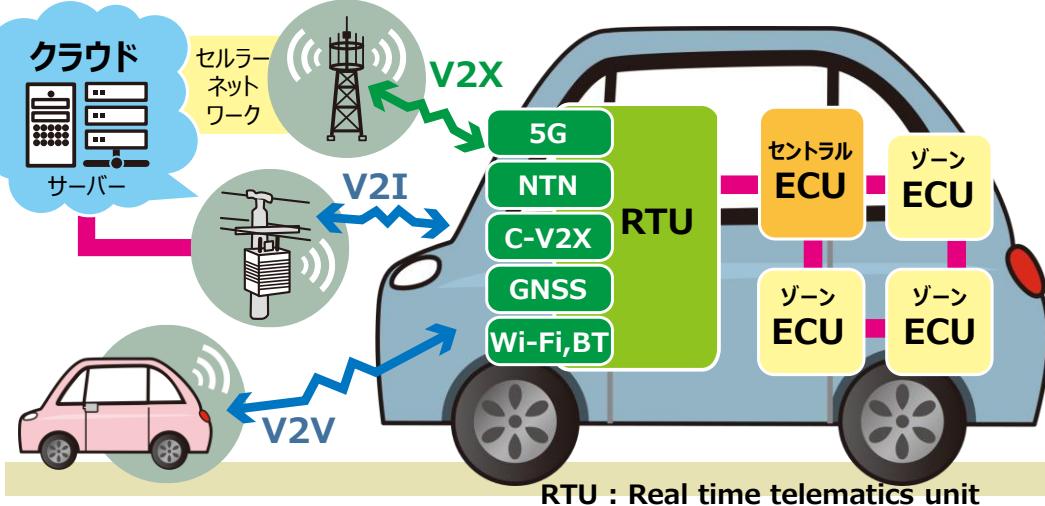
安心

快適

(2) テーマ別戦略 ④融合製品（V2X・次世代伝送）

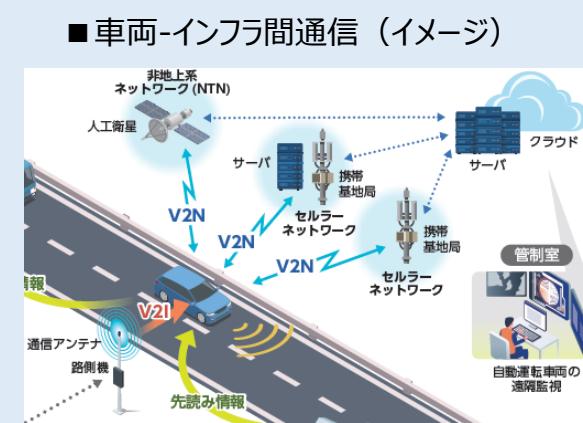


xEV化による車両レイアウトの自由度向上と合わせて
自動運転・コネクティッド技術の進展で実現される次世代モビリティに対応



V2X

- ✓ 車内と車外をつなぐV2X通信で次世代モビリティの実現に貢献
- ✓ ルータ技術、無線通信技術を生かし、低遅延かつ高品質なV2X通信システムを構築

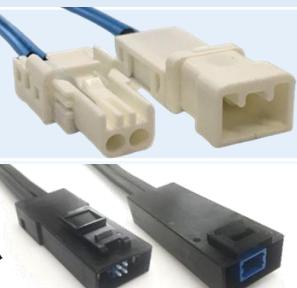


車載光通信

- ✓ コネクティッドや自動運転で必要な高速大容量通信に対応

IEEE/ISO準拠 標準光ハーネス

- ✓ 10Gb/s超の車載光ハーネスにより、高速大容量通信に対応



2025	2030	2035
	2026年評価サンプル提供開始	2030年以降量産化
		2035年以降量産化

光ファイバ・電源線一括配線ハーネス

- ✓ 独自構造の複合ケーブル/コネクタで、ハーネス組み立て性向上



無線給電(WPT)

マイクロモビリティ向けワイヤレス給電システム

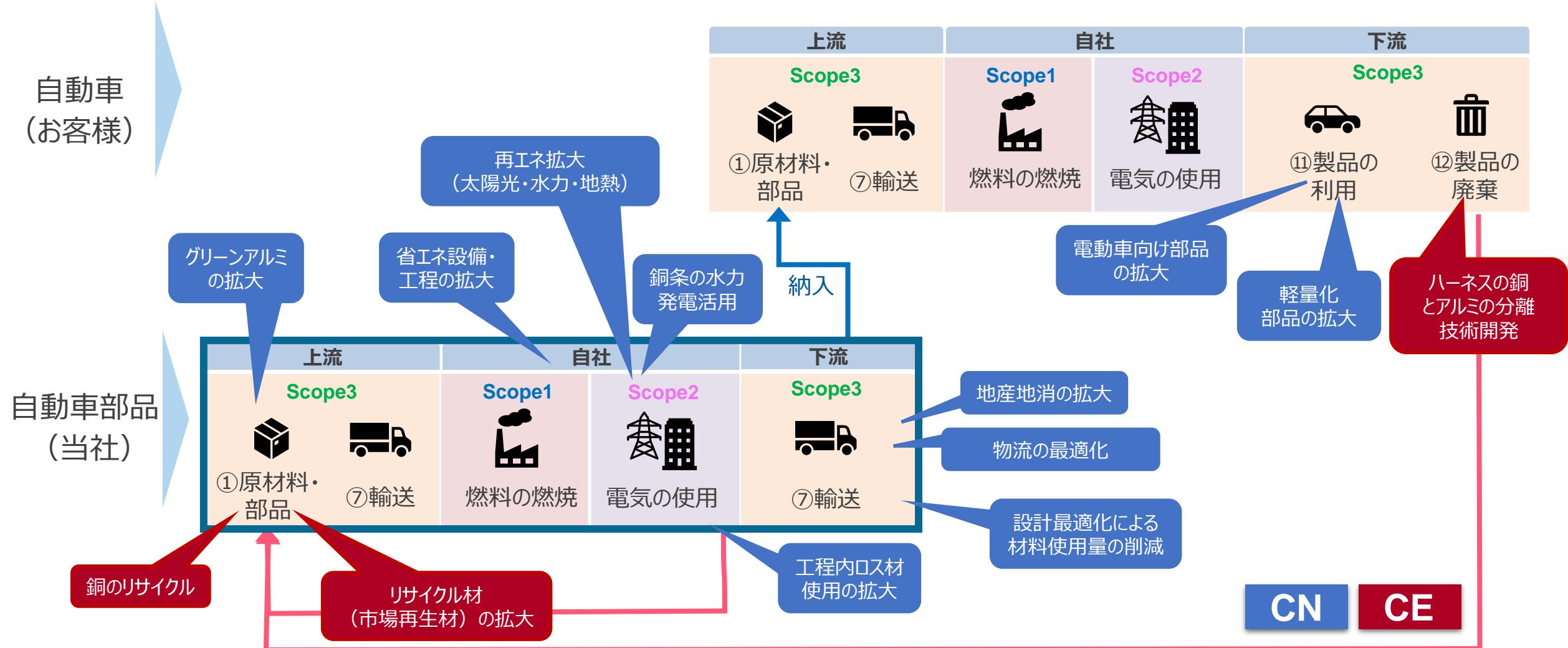
- ✓ モビリティの駐車時充電実現により利便性を向上
- ✓ 高効率で設置許可申請不要なワイヤレス充電装置
- ✓ 既存マイクロモビリティのWPT化アタッチメントの実証実験を実施



3. カーボンニュートラル／サーキュラーエコノミーの推進

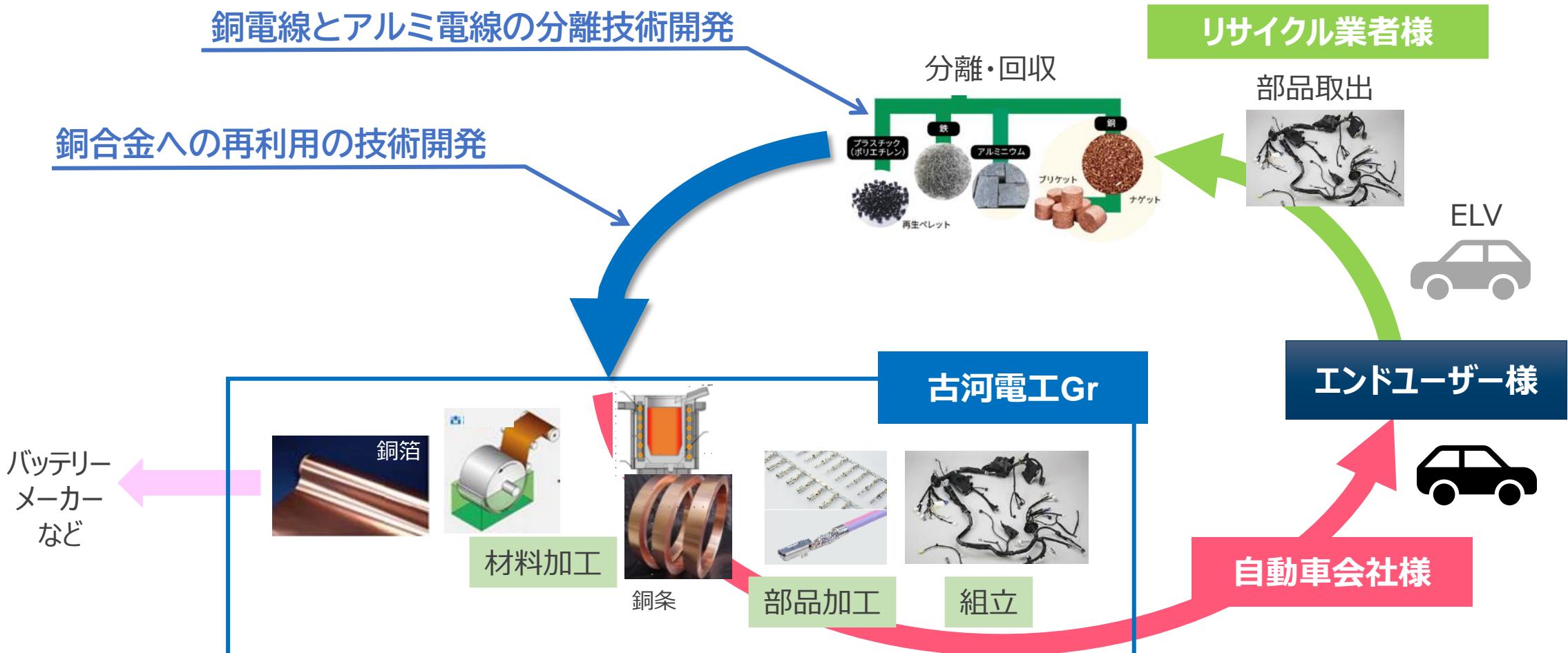
※以降、カーボンニュートラル=CN、サーキュラーエコノミー=CEと表記

自動車（完成車）のライフサイクル全体でのCN/CEの為の技術開発を推進



最適な資源循環を目指し、体制をパートナーと構築中

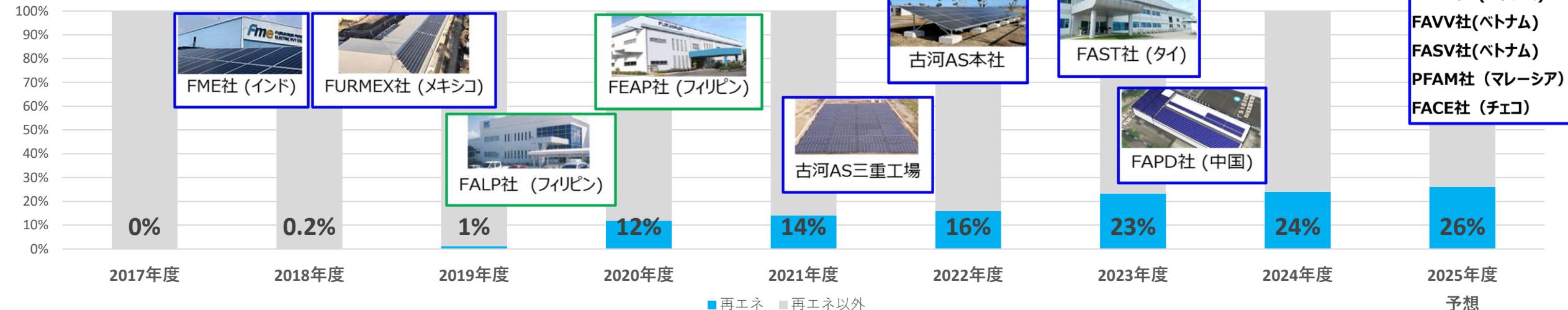
- CO2が少ないリサイクル技術の推進。特に銅資源の有効利用を推進



太陽光発電、地熱発電等の再生可能エネルギーの利用をグローバルで促進

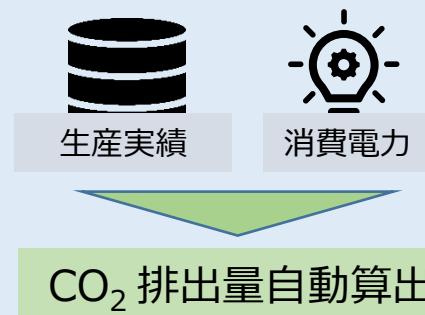
●再エネ利用の生産拠点を順次拡大中

□：太陽光発電設備設置 □：再エネ電力購入(水力、地熱等の由来を含む)



データを活用した効率的な省エネ生産へ深化

- ✓ 製品と紐づけたCO2排出量の自動算出
- ✓ 生産性改善によるエネルギー原単位の改善
- ✓ 省エネ設備の導入推進



3. 顧客戦略と生産体制の進化

- (1) 市場・顧客への対応
- (2) グローバル生産体制
- (3) ワイヤハーネス自動化

(1) 市場・顧客への対応



ワイヤハーネス：日系OEMをターゲット。顧客の製品・地域戦略に対応した受注活動を展開
機能製品（SRC・高電圧製品等）：全世界の顧客をターゲット。成長/未参入地域にも拡大

【欧州市場】

- ・欧系OEM向けにSRCの新規受注を獲得
- ・SRCや高電圧製品等の機能製品は積極的に拡大

【日本・北米市場】

- ・ワイヤハーネスは、自動化・BCM・CN対応等を推進し、HEVを中心に堅調な日系OEMのニーズに対応
- ・欧米系OEMへは南米・欧州と連動し機能製品を中心に展開

【中国市場】

- ・日系OEMの次世代xEVをターゲットとした高電圧製品等の新規受注獲得
- ・中国OEMへのSRC拡販

【ASEAN+インド市場】

- ・日系OEMの地域戦略に対する体制を構築し、販売を拡大
- ・現地OEMへのSRCの新規拡販

【南米市場】

- ・アジア生産のコスト競争力で
欧米系OEMへのSRC 新規受注拡大

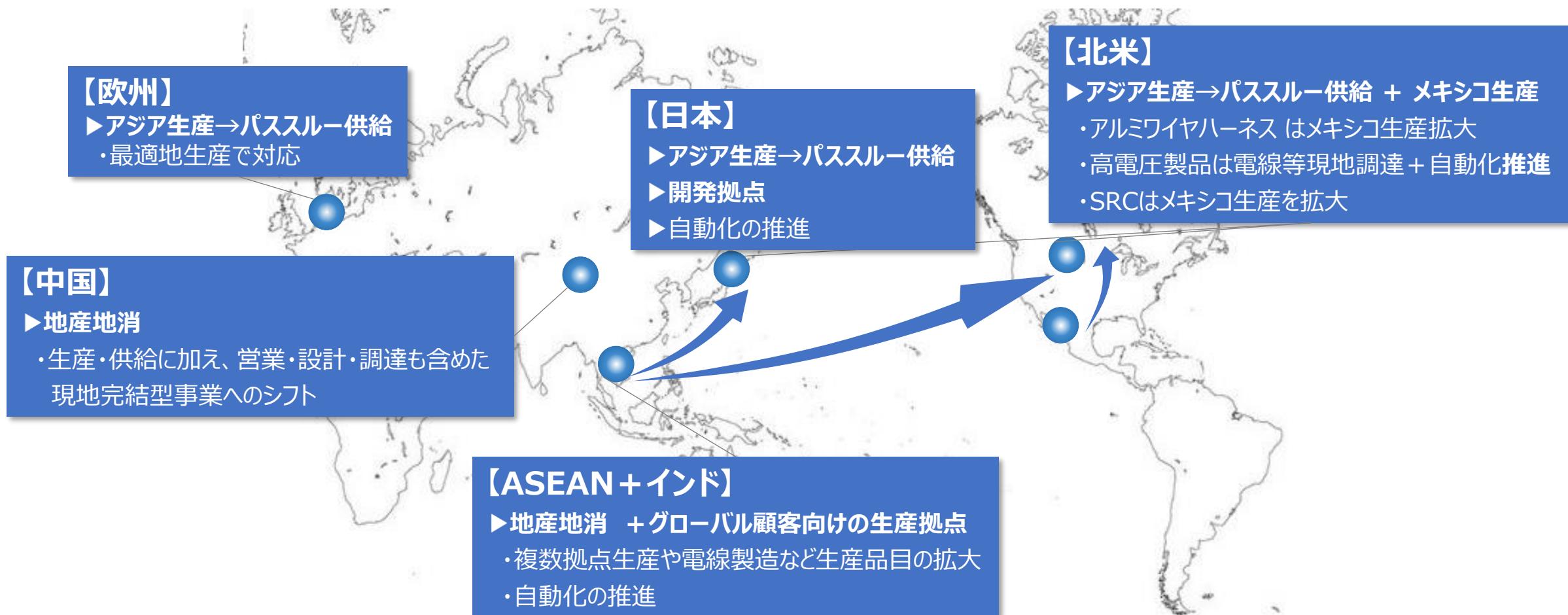
※OEM：カーメーカー ※BCM：事業継続マネジメント

※CN：カーボンニュートラル ※SRC：ステアリングロールコネクタ

(2) グローバル生産体制

ワイヤハーネス : 地産地消 + コスト
機能製品 (SRC) : 集中生産

→ 地政学リスクや市場変化への迅速な対応

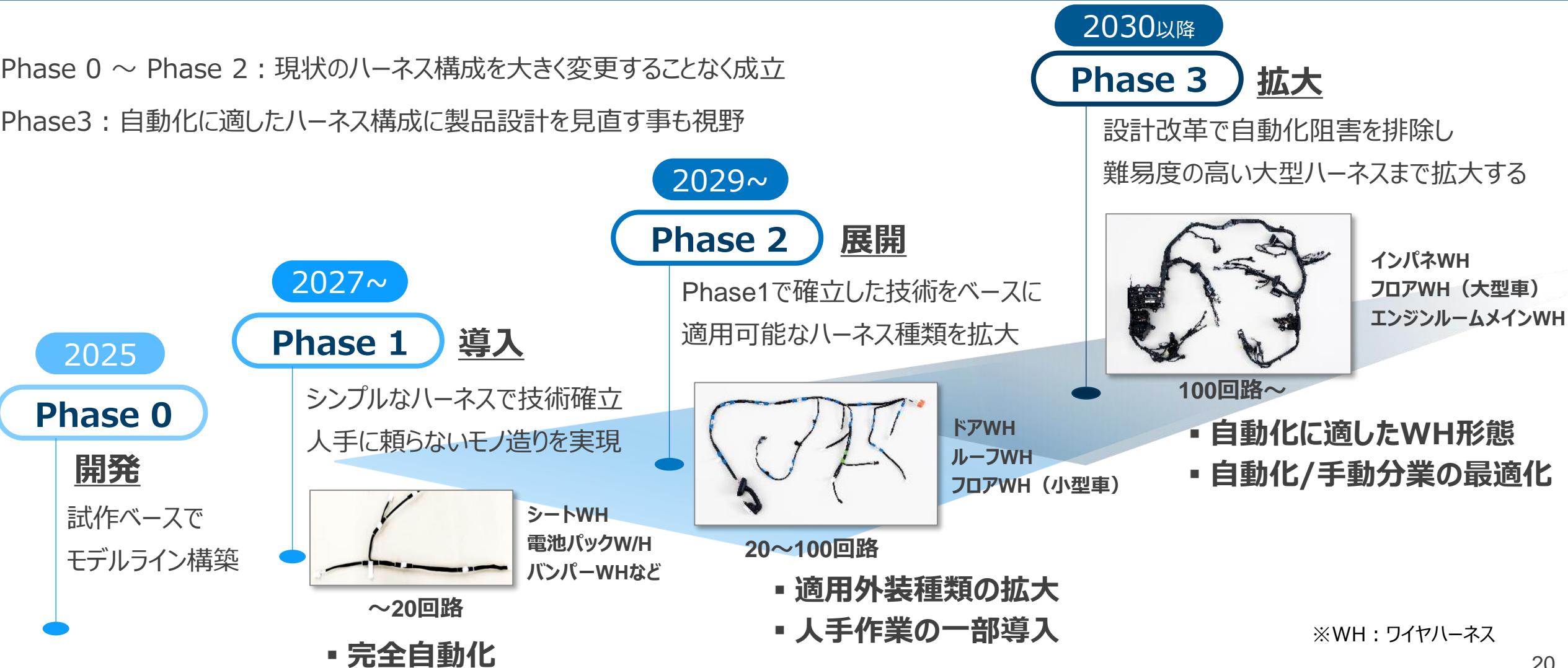


(3) ワイヤハーネス自動化

人手に頼らないモノ造りで、「地産地消」を実現。リードタイムと物流リスクを低減

Phase 0 ~ Phase 2 : 現状のハーネス構成を大きく変更することなく成立

Phase 3 : 自動化に適したハーネス構成に製品設計を見直す事も視野



5. 売上高・営業利益推移

- (1) 売上高・営業利益推移
- (2) 製品別売上計画

(1) 売上高・営業利益推移

売上高

(億円)

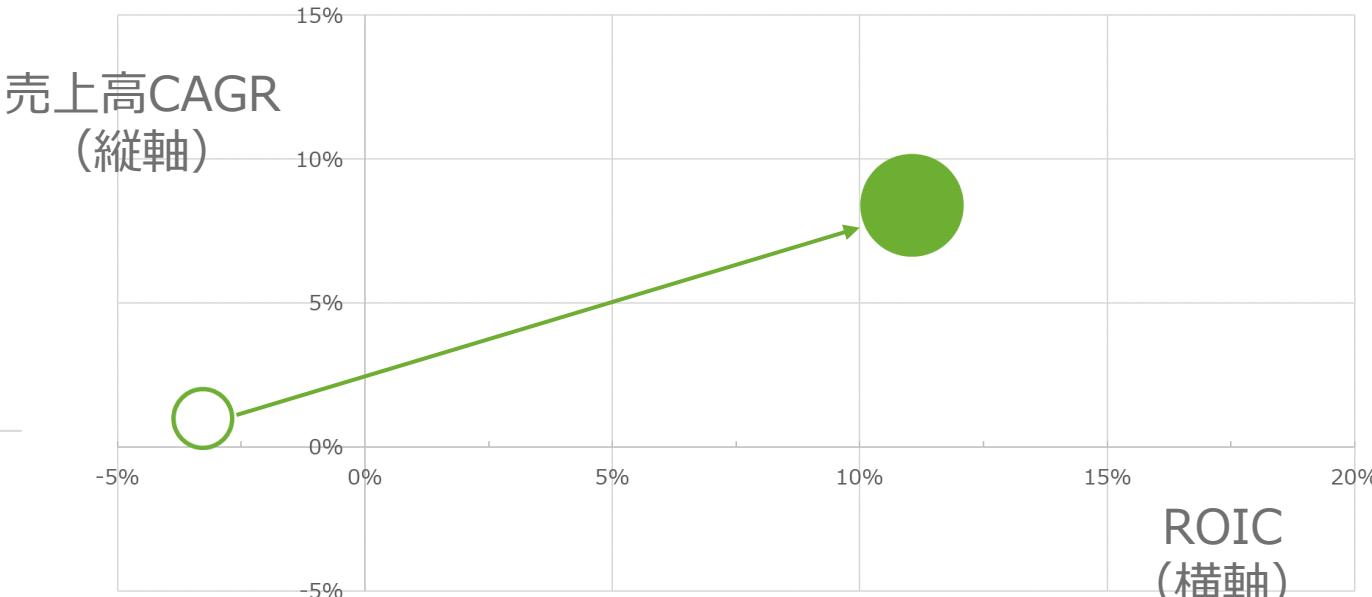


営業利益

(億円)



ROIC (21年度実績 → 25年度予想)



縦軸 ↑ : 売上高CAGR (17~21年度→21~25年度)
横軸 → : ROIC (21年度→25年度)
バブル○ : NOPAT (21年度→25年度)
※バブルの白抜きは負の値

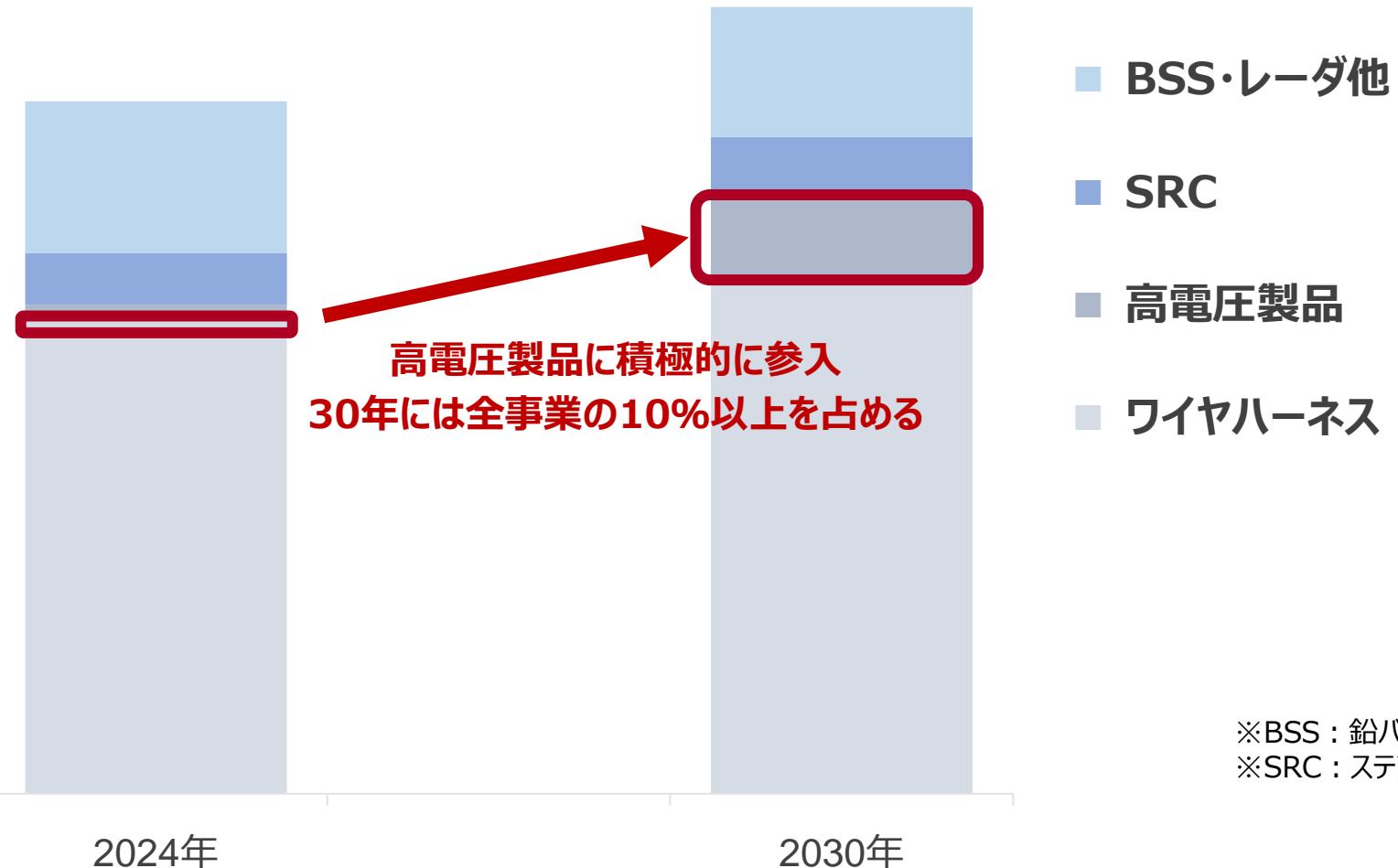
※ CAGR : 年平均成長率、ROIC : 投下資本利益率（税引後）
NOPAT : IFRSに準じ、当期純利益 + 税引後支払利息で算出

- * FY25よりセグメント・サブセグメントの変更および本部費配賦の一部変更についてFY24の実績値をリスト
- ・産業用レーザ事業をインフラセグメント（情報通信ソリューション）からサービス・開発等セグメントへ
- ・メタル電線事業をインフラセグメント（情報通信ソリューション）から（エネルギーインフラ）へ移管

(2) 製品別売上計画

ワイヤハーネス：アルミ化需要の受注獲得にて着実に成長
高電圧製品：EV市場拡大に伴い積極的に市場参入し、売上を拡大

自動車部品製品群別売上



ご清聴ありがとうございました
Thank you

古河電工グループ パーパス

「つづく」をつくり、
世界を明るくする。



補足資料 - Appendix

補足資料 事業概要

補足資料 製品紹介

【25中計（Road To Vision2030 -変革と挑戦-）基本方針】

カーボンニュートラルに向けて脱炭素が加速する中、地球環境配慮と安全対応の要請に対し、既存製品の進化と新事業創出を図り、電源マネジメント・軽量化・安全対応並びに電動化に貢献します。

【事業環境・強みと課題】

事業環境 主な収益の機会

- xEV、MaaSを始めとするCASE推進に対して車の多機能化、モジュール化要求に対応した新たな機会
- カーボンニュートラルに向けて電動化が加速、地球環境配慮、安全対応車向け将来ワイヤリングシステムへの製品拡大

統括部門としての強み

- グループで蓄積したコア技術と車載技術の融合による製品化への技術力
- CN対応としての電動化拡大へ、グリーンエネルギーを活用したアルミハーネス（a端子）での軽量化や電源マネジメントに貢献する等、環境に配慮した製品力

事業環境 主なリスク・脅威

- 地政学リスクの拡がり
- 自動化・省人化の推進
- 顧客の急激な生産変動
- 原材料の高止まり

統括部門としての課題

- パートナーとの共創開発による、情報・エネルギー・モビリティの融合領域での次世代製品群の創出
- BCM対応を強靭なものとし、高品質で安定した製品供給を行うための自動化推進

【25中計達成に向けた主な事業戦略】

(ワイヤハーネス)

a端子の優位性・高信頼性でアルミワイヤハーネスの適用拡大・軽量化促進

(SRC) 高速通信対応／クルマの進化に対応した開発

(BSS) 燃費・電費改善、電源信頼性確保

(レーダ) 高性能な次世代製品（サイバーセキュリティにも対応）の車載向け拡大／建機、産業用車両、交通インフラ等の新市場参入

(高電圧製品)

高電圧・大電流化／EV化による車両システム変化に伴い増加する高圧製品に、当社の強み技術（加工技術・素材力）で対応

社会課題 交通事故の削減 脱炭素社会の実現 強靭な交通インフラ整備



Appendix 製品紹介

自動車部品					
	ワイヤハーネス	高電圧製品	機能製品		
					
安全	●	●	●	●	●
軽量化	●	●		●	
電動化	●	●		●	
CN/CE	●	●	●	●	●
主な 製品	<ul style="list-style-type: none"> ● アルミワイヤハーネス ● 防食端子 (a端子[®]) ● フラットケーブル応用製品 	<ul style="list-style-type: none"> ● 高電圧ワイヤハーネス ● 高電圧ジャンクションボックス ● 高電圧バスバー製品 ● 大連流高電圧コネクタ ● 電池パック内ワイヤハーネス 	<ul style="list-style-type: none"> ● SRC (ステアリングロールコネクタ) 	<ul style="list-style-type: none"> ● BSS[®] (鉛バッテリ状態検知センサ) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 周辺監視レーダ
主な 用途	<ul style="list-style-type: none"> ● 車両内配線 ● スライドドア・ロングスライドシートへの電力供給および信号の伝達 	<ul style="list-style-type: none"> ● xEV車両用の高電圧回路の配電 ● xEV車両用の高電圧回路の電源分配 	<ul style="list-style-type: none"> ● エアバッグ ● オーディオ、クルーズコントロール操作 	<ul style="list-style-type: none"> ● 車両電源マネジメント 	<ul style="list-style-type: none"> ● 先進運転支援システム(ADAS)
主な 顧客	<ul style="list-style-type: none"> ● 日系OEM 	<ul style="list-style-type: none"> ● 日系OEM 	<ul style="list-style-type: none"> ● 日系OEM / Tier 1 ● 海外OEM / Tier 1 	<ul style="list-style-type: none"> ● 日系OEM 	<ul style="list-style-type: none"> ● 日系OEM ● 建機メーカー など